

# 肺癌登録合同委員会の 活動と課題

## 肺癌登録合同委員会

新谷康、吉野一郎、山本信之、豊岡伸一、千田雅之、佐治久、  
佐藤幸夫、清家正博、高橋和久、高山浩一、四倉正也、渡辺俊一

# 肺癌登録合同委員会の沿革

- 1994年

1989年度外科症例を日本肺癌学会・日本呼吸器外科学会が登録集積、3,643例(第1回登録事業)

- 1998年

日本肺癌学会・日本呼吸器外科学会 **共同で肺癌登録合同委員会を設立**

– 事務局： 杏林大学 呼吸器外科

- 以後

– 事務局： 大阪大学 呼吸器外科

– 千葉大学 呼吸器外科

– 国立がん研究センター中央病院 呼吸器外科

# 肺癌登録合同委員会の運営

## ■ 現在の構成学会

- 日本肺癌学会
- 日本呼吸器学会
- 日本呼吸器外科学会
- 日本呼吸器内視鏡学会
- 日本胸部外科学会
- 日本胸腺研究会
- 日本石綿・中皮腫学会

## ■ 委員(14人)

- 5学会から2名ずつの委員:計10人(委員長を含む)
- IASLC Staging Committee 委員(UICC担当)
- 統計学者
- 事務局(事務局長+1)

# 肺癌登録合同委員会のHP

## 肺癌登録合同委員会

肺癌登録合同委員会は日本肺癌学会、日本呼吸器外科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本胸部外科学会、日本石綿・中皮腫学会、日本胸腺研究会と協同で運営されており、我が国の肺癌症例登録、解析事業をとおして、肺癌を含めた胸部悪性腫瘍の発生や予後に関わる因子を明らかにし、その予防、診断、治療の向上に寄与することを目的として活動しています。

これまでに1989年、1994年、1999年、2004年、2010年の外科症例の後方視的調査、および2002年に内科・外科にて初回診療された症例、2012年に内科にて初回診療された症例の登録事業を行い、解析結果を報告して参りました。また、これらの事業により登録された症例データは、International Association for the Study of Lung Cancer/International Union Against Cancerによる病期分類の第9版改定の際の重要な基礎資料として用いられ、世界の胸部悪性腫瘍の診療に大きく貢献してきました。

現在、第10次登録事業「2017年肺癌切除例」、第11次登録事業「2021年肺癌切除例」の登録事業が実施されており、また胸腺上皮性腫瘍症例登録を第8次、悪性胸腺中皮腫症例登録を第9次、第12次事業として実施しております。

このような活動と実績は、我が国の肺癌診療に関わる皆様の熱意の賜物であると存じております。肺癌研究のさらなる発展のために、今後の事業へのご協力をお願い申し上げます。

令和6年8月1日

肺癌登録合同委員会 委員長 新谷 康

患者様向け

医療機関向け

Copyright haigantouroku goudou iinkai All Rights Reserved.

<https://haigan-touroku.jp/>

# 肺癌登録合同委員会のHP

## 肺癌登録合同委員会

肺癌登録合同委員会は日本肺癌学会、日本呼吸器外科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本胸部外科学会、日本石綿・中皮腫学会、日本胸腺研究会と協同で運営されており、我が国の肺癌症例登録、解析事業をとおして、肺癌を含めた胸部悪性腫瘍の発生や予後に関わる因子を明らかにし、その予防、診断、治療の向上に寄与することを目的として活動しています。

これまでに1989年、1994年、1999年、2004、2010年の外科症例の後方視的調査、および2002年に内科・外科にて初回診療された症例、

肺癌を中心とする胸部悪性腫瘍の**全国の症例登録と解析事業**により、その発生や予後に関わる因子を明らかにし、**診断と治療の向上に貢献する事**を目的に活動しております。

患者様向け

医療機関向け

Copyright haigantouroku goudou iinkai All Rights Reserved.

<https://haigan-touroku.jp/>

# 登録事業の実績

## これまでの事業

- 第1次(1994年) : 1989年外科症例の後ろ向き登録 3,643 例
- 第2次(1999年) : 1994年外科症例の後ろ向き登録 7,408 例
- 第3次(2002年) : 2002年外科・内科症例の前向き登録 14,925 例
- 第4次(2005年) : 1999年外科症例の後ろ向き登録 13,310 例
- 第5次(2010年) : 2004年外科症例の後ろ向き登録 11,663 例
- 第6次(2012年) : 2012年の非切除症例の前向き登録 14,016 例
- 第7次(2016年) : 2010年の外科症例の後ろ向き登録 19,026 例

## 現在進行中の事業

- 第8次(2018年) : 胸腺腫・胸腺癌の前向き登録 1,560 例
- 第9次(2017年) : 悪性胸膜中皮腫の前向き登録 352 例
- 第10次(2024年) : 2017年の外科症例の後ろ向き登録 本年開始
- 第11次(2022年) : 2021年の外科症例の後ろ向き登録 20,950 例
- 第12次(2023年) : 悪性胸膜中皮腫外科症例の後方視登録 577 例

# 登録事業の実績

## これまでの事業

- 第1次(1994年) : 1989年外科症例の後ろ向き登録 3,643 例
- 第2次(1999年) : 1994年外科症例の後ろ向き登録 7,408 例
- 第3次(2002年) : 2002年外科・内科症例の前向き登録 14,925 例
- 第4次(2005年) : 1999年外科症例の後ろ向き登録 13,310 例
- 第5次(2010年) : 2004年外科症例の後ろ向き登録 11,663 例
- 第6次(2012年) : 2012年の非切除症例の前向き登録 14,016 例
- 第7次(2016年) : **2010年の外科症例の後ろ向き登録** 19,026 例

## 現在進行中の事業

- 第8次(2018年) : 胸腺腫・胸腺癌の前向き登録 1,560 例
- 第9次(2017年) : 悪性胸膜中皮腫の前向き登録 352 例
- 第10次(2024年) : 2017年の外科症例の後ろ向き登録 本年開始
- 第11次(2022年) : 2021年の外科症例の後ろ向き登録 20,950 例
- 第12次(2023年) : 悪性胸膜中皮腫外科症例の後方視登録 577 例

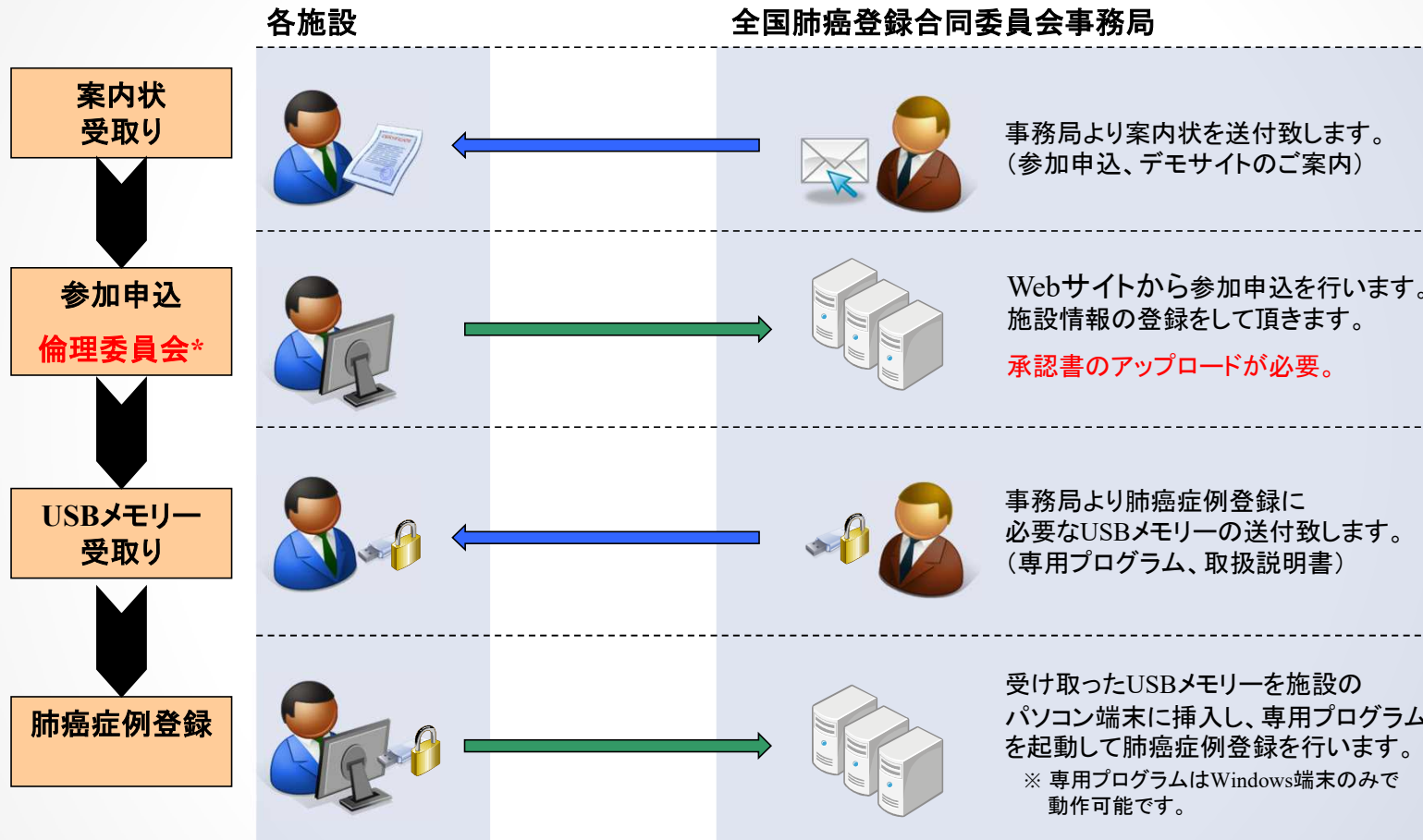
# 肺癌登録 第7次事業

## 対象

- 施設： 呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設
- 期間： 2010年1月1日から2010年12月31日
- 対象手術：原発性肺癌に対する治療目的の手術
- 登録方法：後向き多施設共同観察研究
- 除外条件：
  - リンパ節生検・胸膜生検などの臨床病期決定のための手術。
  - 経気管支鏡による腫瘍切除。
  - ラジオ波やその他の技術による肺切除を伴わない局所療法。
  - 原発性気管癌に対する手術。



# 登録方法



**\*前向き登録は患者同意書が必要**

# 登録内容

2010年 肺癌手術症例登録

患者情報、既往歴、併存症

戻る 次へ

基本情報

症例番号: 00019995  
性別: 男  
生年月: 1929年4月  
最終更新日: 2017年12月14日

Body Height:  cm  
Body Weight:  kg

ECOGのPerformance Status

0...全く問題なく活動できる、病前と同じ日常生活がほぼ行える  
1...1歩は歩けるが(車いす)活動は制限されるが、歩行可能で軽作業や座っている作業は行うことができる。例:軽い家事、事務作業  
2...歩行可能で自分の身の回りのことはすべて可能だが、作業はできない 日中の50%はベッド外で過ごす  
3...歩行可能で自分の身の回りのことしかできない 日中の50%以上をベッドか椅子で過ごす  
4...全く歩けない、自分の身の回りのことは全くできない 完全にベッドか椅子で過ごす  
不明

既往歴 (複数選択可) 同一既往歴が複数ある場合は、直近の診療時期を入力してください。

以下の既往歴なし  
虚血性心疾患治療歴 (外科的あるいは血管内治療)  
肺癌治療歴 (同一病巣に対する治療歴は除く) 補足説明  
開胸手術歴 (胸腔鏡手術を含む。前項の肺癌治療歴の手術についても再度入力してください)  
肺切除治療歴  
肺癌以外の悪性疾患治療歴 (化学療法、放射線療法、外科的手術療法)  
不明

併存疾患 (複数選択可) 難易度レベルは難易度はこちら

以下の併存疾患なし  
精神疾患もしくは精神状態を有する  
認知症  
肝機能障害 (Child-Turcotte分類B以上)  
脳血管障害 (症状を有した。もしくは治療を要した脳梗塞・脳出血)  
高血圧 (定期的な降圧剤の内服を有するか、頻回に140/90以上が認められる)  
心疾患  
腎機能障害 (血清クレアチニン5以上もしくは慢性透析を要する)  
糖尿病  
貧血 (Hb8.0g/dl以下)  
ステロイド内服 (吸入ステロイドは除く) (下記選択項目はプレドニル換算で)  
不明

和暦変換ツール  
昭和  西暦変換

閉じる

2010年 肺癌手術症例登録

cT因子

戻る 次へ

術前治療を行った場合は、その治療前の進行度を記入してください。

術前の肺癌の診断およびステージング検査 (複数選択可)

気管支鏡 EBUS(超音波気管支鏡)  
胸部CT (病変部厚さ2mm以下のHRCT) 胸部CT (病変部厚さ2mm以下のHRCT以外)  
PET 胸腔鏡下生検  
経気管鏡 経気管鏡下生検は胸部CT  
腫瘍超音波検査もしくは腫瘍CT 骨シンチグラフィ  
その他 不明

治療前) 腫瘍最大径 補足説明 不明(事務局特殊ボタン)

cm

Consolidationサイズ (肺野条件でのConsolidationサイズ)

Consolidationサイズ  
不明

肺癌占拠部位

右上葉 右中葉 右下葉(S6) 右下葉底区域  
右下葉(その他) 左上葉上大区域 左上葉舌区域 左上葉(その他)  
左下葉(S6) 左下葉底区域 左下葉(その他) 気管分岐部  
右主気管支 左主気管支 右中間気管支 右上葉支  
右中葉支 右下葉支 左上葉支 左下葉支  
その他

主気管支への浸潤

なし  
気管分岐部より2cm以上  
気管分岐部より2cm未満だが気管分岐部には及ばない。  
気管分岐部におよぶ  
不明

胸膜浸潤 (臨床診断)

PL0  
PL1  
PL2  
PL3  
不明

閉じる

2010年 肺癌手術症例登録

予後

戻る 登録

最終確認年月  
年 月 日 \* 西暦入力(和暦の時は画面左下の和暦変換ツールにてご確認ください。)

最終確認時の予後  
生存  
死亡

再発 補足説明  
なし  
あり

経過観察中の多発肺癌の治療 (経過観察のみは含まない) 補足説明  
なし あり(1個) あり(2個) あり(3個以上)

術後生存日数  
30日以内  
30~90日  
90日超過  
不明

戻る 登録

閉じる

© Copyright Haasizurouko Goodou Inku All Rights Reserved.

14ページにわたる登録内容

# 成果発表

## 主論文発表

## 邦文発表



Journal of Thoracic Oncology

Available online 10 October 2018

In Press, Corrected Proof



Original Article

### Demographics, Safety and Quality, and Prognostic Information in Both the Seventh and Eighth Editions of the TNM Classification in 18,973 Surgical Cases of the Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry Database in 2010

Jiro Okami MD, PhD <sup>a,\*,</sup> Yasushi Shintani MD, PhD <sup>b,</sup> Meinoshin Okumura MD, PhD <sup>c,</sup> Hiroyuki Ito MD, PhD <sup>d,</sup> Takashi Ohtsuka MD, PhD <sup>e,</sup> Shinichi Toyooka MD, PhD <sup>f,</sup> Takeshi Mori MD, PhD <sup>g,</sup> Shun-ichi Watanabe MD, PhD <sup>h,</sup> Hiroshi Date MD, PhD <sup>i,</sup> Kohei Yokoi MD, PhD <sup>j,</sup> Hisao Asamura MD, PhD <sup>k,</sup> Takeshi Nagayasu MD, PhD <sup>l,</sup> Etsuo Miyaoka PhD <sup>m,</sup> Ichiro Yoshino MD, PhD <sup>n,</sup> Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry

Show more

<https://doi.org/10.1016/j.jtho.2018.10.002>

[Get rights and content](#)

(肺癌. 2019;59:2-28)

© 2019 The Japan Lung Cancer Society

#### REPORT

### 2010年肺癌外科切除例の全国集計に関する肺癌登録合同委員会報告 —二次報告—

肺癌登録合同委員会

岡見次郎<sup>1</sup>・新谷 康<sup>1</sup>・奥村明之進<sup>1</sup>・伊藤宏之<sup>1</sup>・大塚 崇<sup>1</sup>・  
豊岡伸一<sup>1</sup>・森 毅<sup>1</sup>・渡辺俊一<sup>1</sup>・伊達洋至<sup>1</sup>・横井香平<sup>1</sup>・  
浅村尚生<sup>1</sup>・永安 武<sup>1</sup>・高橋和久<sup>1</sup>・木浦勝行<sup>1</sup>・秋田弘俊<sup>1</sup>・  
滝口裕一<sup>1</sup>・宮岡悦良<sup>1</sup>・吉野一郎<sup>1</sup>

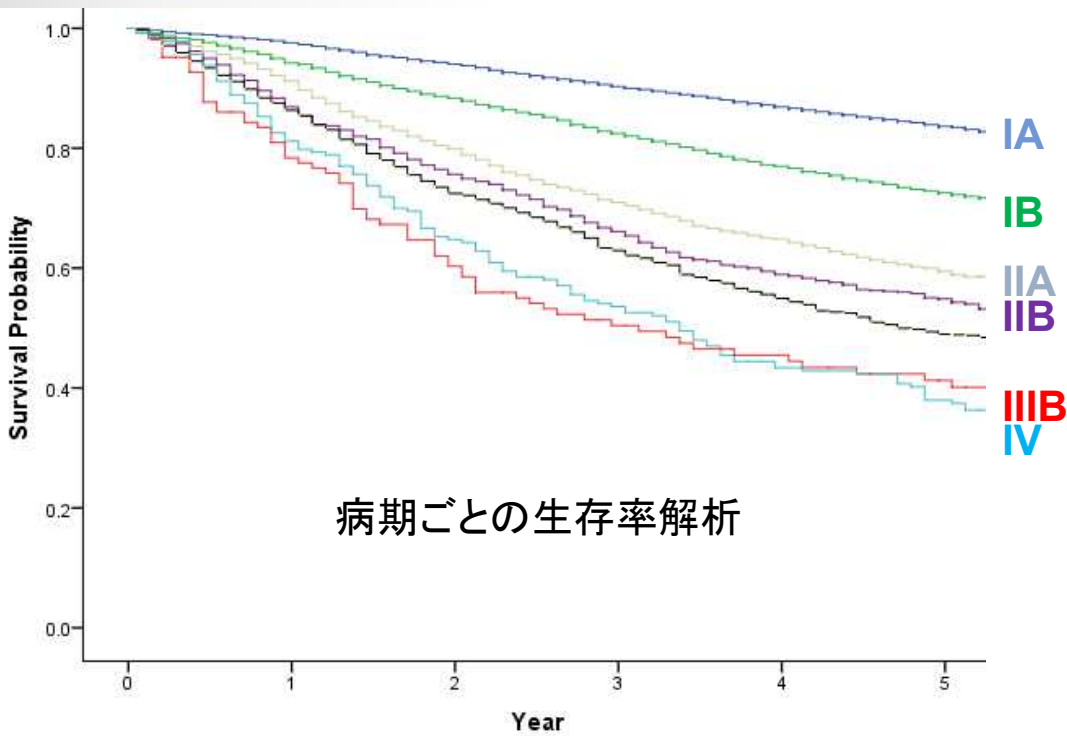
A Report from the Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry:  
a Study of 18,973 Surgical Cases in 2010  
—Secondary Publication—

肺癌. 2019;59:2-28

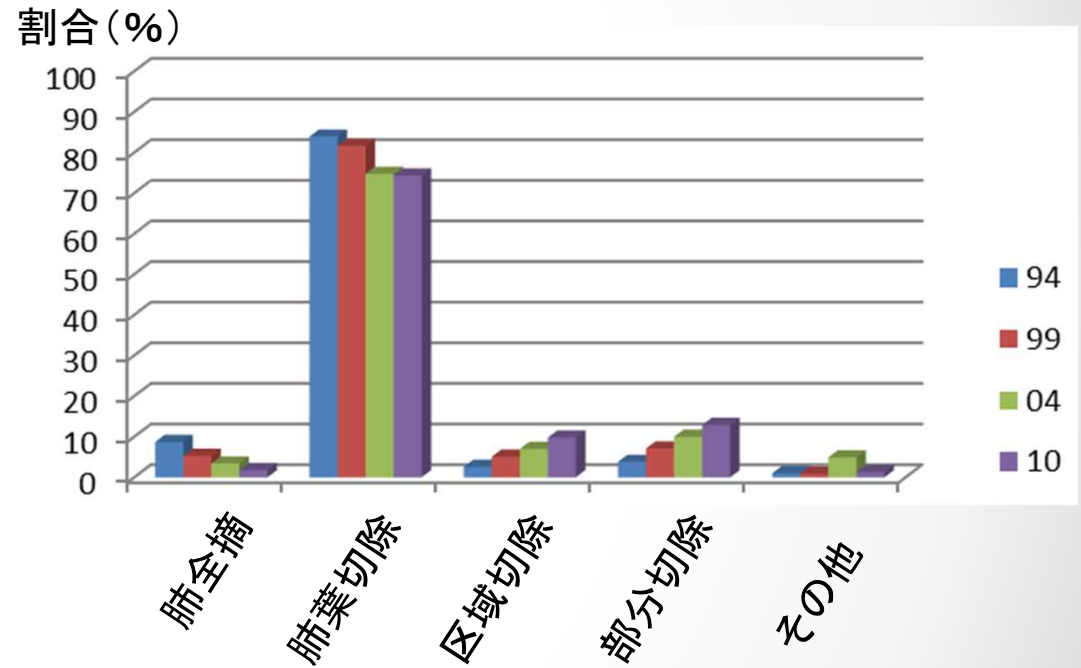
J Thorac Oncol. 2019 Feb;14(2):212-222.

# 解析例

## 最新の外科症例の 予後解析



## 他の事業との比較 肺癌手術治療の動向



# 第7次事業のデータからの副論文発表

1. Demographics, Safety and Quality, and Prognostic Information in Both the Seventh and Eighth Editions of the TNM Classification in 18,973 Surgical Cases of the Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry Database in 2010. Okami J, Shintani Y, Okumura M, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Date H, Yokoi K, Asamura H, Nagayasu T, Miyaoka E, Yoshino I; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *J Thorac Oncol*. 2019 Feb;14(2):212-222.
2. Impact of the preoperative body mass index on the postoperative outcomes in patients with completely resected non-small cell lung cancer: A retrospective analysis of 16,503 cases in a Japanese Lung Cancer Registry Study. Fukumoto K, Mori S, Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Date H, Endo S, Nagayasu T, Nakanishi R, Miyaoka E, Okumura M, Yoshino I; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *Lung Cancer*. 2020 Nov;149:120-129.
3. Clinical features and outcomes of patients with stage I multiple primary lung cancers. Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Date H, Endo S, Nagayasu T, Nakanishi R, Miyaoka E, Okumura M, Yoshino I; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *Cancer Sci*. 2021 May;112(5):1924-1935.
4. Clinical Impacts of EGFR Mutation Status: Analysis of 5780 Surgically Resected Lung Cancer Cases. Suda K, Mitsudomi T, Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Date H, Endo S, Nagayasu T, Nakanishi R, Miyaoka E, Okumura M, Yoshino I; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *Ann Thorac Surg*. 2021 Jan;111(1):269-276.
5. Preoperative renal dysfunction and long-term survival after surgery for non-small cell lung cancer. Saito T, Murakawa T, Shintani Y, Okami J, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *J Thorac Cardiovasc Surg*. 2022 Jul;164(1):227-239.
6. Limited resection for stage IA radiologically invasive lung cancer: a real-world nationwide database study. Soh J, Toyooka S, Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Endo S, Nakanishi R, Kadokura M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *Eur J Cardiothorac Surg*. 2022 Jun 15;62(1):ezac342.
7. Hazard Function Analysis of Recurrence in Patients with Curatively Resected Lung Cancer: Results from the Japanese Lung Cancer Registry in 2010. Yamauchi Y, Kawamura M, Okami J, Shintani Y, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Endo S, Kadokura M, Nakanishi R, Miyaoka E, Suzuki H, Yoshino I, Date H. *Cancers (Basel)*. 2022 Oct 19;14(20):5119.
8. The prognostic impact of lung adenocarcinoma predominance classification relating to pathological factors in lobectomy, the Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry Database in 2010. Ito H, Date H, Shintani Y, Miyaoka E, Nakanishi R, Kadokura M, Endo S, Chida M, Yoshino I, Suzuki H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *BMC Cancer*. 2022 Aug 10;22(1):875.
9. Features of anaplastic lymphoma kinase rearrangement in early-stage lung cancer: Analysis of a nationwide Japanese database. Matsuura Y, Mun M, Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Mori T, Watanabe SI, Chida M, Endo S, Nakanishi R, Kadokura M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *J Surg Oncol*. 2023 Oct;128(5):916-924.
10. Is adjuvant chemotherapy for completely resected p-stage IA (>2 cm) and stage IB non-small-cell lung cancer beneficial for elderly patients? A large, retrospective cohort study based on real-world data from Japan. Adachi H, Saito A, Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Mori T, Watanabe SI, Chida M, Endo S, Nakanishi R, Kadokura M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H, Japanese Joint Committee Of Lung Cancer Registry. *Jpn J Clin Oncol*. 2023 Dec 7;53(12):1191-1200.
11. Benefit of Adjuvant Chemotherapy for Patients Older Than 75 Years With Completely Resected p-Stage II-III Non-Small-Cell Lung Cancer: A Retrospective Cohort Study Using Japanese Nationwide Real-World Data. Adachi H, Morohoshi T, Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Mori T, Watanabe SI, Chida M, Endo S, Nakanishi R, Kadokura M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *Clin Lung Cancer*. 2024 Jan;25(1):61-71.
12. Clinicopathological Features and Survival Outcomes of Resected Lung Adenosquamous Carcinoma: Results From a Nationwide Japanese Registry Data. Hishida T, Okami J, Asamura H, Miyaoka E, Shintani Y, Kadokura M, Endo S, Chida M, Suzuki H, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *Clin Lung Cancer*. 2024 May 27:S1525-7304(24)00107-4.
13. Clinical outcomes of left upper segmentectomy vs. lobectomy for early non-small-cell lung cancer: a nationwide database study in Japan. Tane S, Okami J, Maniwa Y, Shintani Y, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Chida M, Endo S, Nakanishi R, Kadokura M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *Surg Today*. 2024 Apr 18. doi: 10.1007/s00595-024-02844-8.
14. Surgically resected sarcomatoid carcinoma of the lung: a nationwide retrospective study in 2010. Kaseda K, Asakura K, Shintani Y, Okami J, Toyooka S, Sato Y, Watanabe SI, Chida M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. *BMC Cancer*. 2024 Aug 2;24(1):938. doi: 10.1186/s12885-024-12728-2.

# 肺癌登録事業の国際貢献

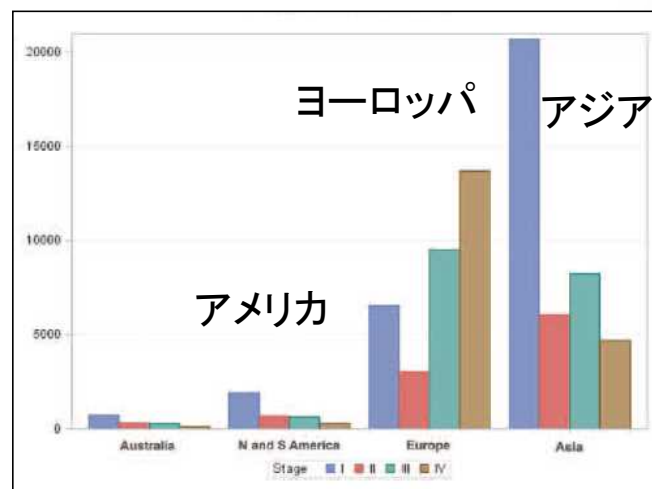
## TNM Ver.8 (2016) への貢献

- 1994年 7,408 例
- 1999年 13,310 例
- 2002年 14,925 例
- 2004年 11,663 例

47,306例のデータが  
世界肺癌学会 (IASLC)  
のstaging committee に  
提供された

### 地域別の登録症例数

It is much better in details to allow refinements in the analyses of the different descriptors. Europe still is the leading contributing region, closely followed by Asia, thanks to the massive participation of Japan. In relation to the previous database, the cases from North America and Australia have dropped, and



# 肺癌登録事業の国際貢献

## TNM Ver.9 (2024) への貢献

- 第6次(2012年) 14,016 例
  - 第7次(2016年) 19,026 例
- } 33,042例のデータを  
世界肺癌学会 (IASLC) の  
staging committeeへ提供

### APPENDIX 3. Participating Institutions in the third phase of the IASLC Lung Cancer Staging Project

*Participating institutions ordered by number of eligible cases submitted*

I. Yoshino, Japanese Joint Lung Cancer Registry, Chiba, Japan (23,663 cases); T. Muley, Thoraxklinik, University Hospital Heidelberg, Heidelberg, Germany (8887 cases); W. Li, CAALC: West China Hospital, Sichuan University, Chengdu, China (7345 cases); Y. Kim, Korean Association for Lung Cancer, Seoul, South Korea (4622 cases); H.K. Kim, Samsung Medical Center, Seoul, South Korea (4130 cases); F. Griesinger, CRISP, Berlin, Germany (5482 cases)\*; J. Huang, Memorial Sloan Kettering Cancer Center, New York, USA (3146 cases); R. Osarogiagbon, Baptist Memorial Hospital, Memphis, USA (3021cases); .....

# 肺癌登録事業の貢献

- わが国における胸部悪性腫瘍に関する診断・治療情報を集計し、予後因子等の解析を論文として世界に向けて発信する。
- 国際標準にかかるTNM分類改定に多くの症例情報を提供し、発言力のある形で寄与していくことを目指す。
- 肺がん診療ガイドラインの整備、治験を含めた臨床研究の基礎データとして活用する。
- 胸部悪性腫瘍の予防、診断、治療の向上に寄与する。



# 肺癌登録事業の課題

- 事業の外科系への偏り
  - 内科系登録事業の促進
- 国民への還元
  - 一般の方への説明責任
- 登録率のさらなる向上
  - 作業負担の軽減
  - インセンティブ
- National Clinical Database (NCD) との連携(外科症例)
  - 呼吸器外科領域の2階部分の活用(第11次・12次事業)

# 内科系事業の問題点

2012年 肺癌症例登録

● 担当者 [詳細を非表示](#)

担当者1:  
担当者2:

● 基本情報 [詳細を非表示](#)

症例番号: 00000062  
性別: 男  
生年月: 1950年1月  
最終更新日: 2010年10月29日  
症例登録数/  
総症例登録数: 26/62

● メニュー

- 基本情報 No. 1
- 基本情報 No. 2
- 基本情報 No. 3
- 基本情報 No. 4
- 1次治療
- 2次治療
- 3次治療
- 4次治療
- 5次治療
- 6次治療
- 7次治療
- 8次治療
- 9次治療
- 10次治療
- 緩和療法・予後

症例番号の入力へ

1次治療

1次治療開始年月  
年 月 ※西暦で入力してください。

1次治療内容

緩和療法  化学療法単独  
 逐次化学放射線療法  同時化学放射線療法  
 胸部放射線療法単独  
 その他(要記入)

1次緩和療法

緩和放射線療法  胸腔ドレナージ(胸膜癒着療法を含む)  
 心嚢ドレナージ  スtent・骨セメント  
 薬物療法のみ  
 その他(要記入)

1次胸膜癒着術に使用した薬剤

なし  ビシパニール  
 プレオマイシン  シスプラチン  
 タルク  ミノマイシン  
 その他(要記入)

1次化学療法

シスプラチン含む剤  カルボプラチン含む剤  
 非プラチナ剤  第3世代抗癌剤  
 ゲフィチニブ  エルロロチニブ  
 ベシズマブを含む化学療法  
 その他(要記入)

1次胸部放射線療法 1回線量

コンベンショナル  低照射  
 加温過分割照射  不明  
 その他(要記入)

1次胸部放射線療法総線量

40Gy未満  40Gy以上50Gy未満  
 50Gy以上60Gy未満  60Gy以上70Gy未満  
 70Gy以上  不明

1次胸部放射線療法治療計画

CT/シミュレーターによる  不明  
 その他の方法による

1次化学療法または放射線療法効果

CR  PR  
 SD  NE  
 その他(要記入)

1次胸部以外の積極的放射線療法の部位 (複数選択可)

脳(ガンマナイフ)  脳(全脳照射)  
 骨  
 その他(要記入)

戻る 次治療へ 緩和療法・予後へ

※ 次治療がない場合は、緩和療法・予後へ

© Copyright Haigantouroku Goudou linkai All Rights Reserved.

2012年 肺癌症例登録

● 担当者 [詳細を非表示](#)

担当者1:  
担当者2:

● 基本情報 [詳細を非表示](#)

症例番号: 00000062  
性別: 男  
生年月: 1950年1月  
最終更新日: 2010年10月29日  
症例登録数/  
総症例登録数: 26/62

● メニュー

- 基本情報 No. 1
- 基本情報 No. 2
- 基本情報 No. 3
- 基本情報 No. 4
- 1次治療
- 2次治療
- 3次治療
- 4次治療
- 5次治療
- 6次治療
- 7次治療
- 8次治療
- 9次治療
- 10次治療
- 緩和療法・予後

症例番号の入力へ

緩和療法・予後

緩和療法(2次治療以降)

なし  緩和放射線療法  
 胸腔ドレナージ(胸膜癒着療法を含む)  心嚢ドレナージ  
 スtent・骨セメント  薬物療法のみ  
 不明  
 その他(要記入)

緩和放射線療法の部位(2次治療以降) (複数選択可)

脳(ガンマナイフ)  脳(全脳照射)  
 骨  
 その他(要記入)

胸膜癒着術に使用した薬剤(2次治療以降)

なし  ビシパニール  
 プレオマイシン  シスプラチン  
 タルク  ミノマイシン  
 その他(要記入)

生死

生存中  死亡

最終生存確認年月  
年 月 ※西暦で入力してください。

死因

原病死  他病死  
 治療関連死  不明

戻る 登録

© Copyright Haigantouroku Goudou linkai All Rights Reserved.

転院など  
↓  
正確な予後追跡が困難  
長期予後が不明  
死亡原因が不明

# 現在の各登録事業の問題点

	継続性	網羅性 (全症例)	登録時の患者 背景情報  年齢、性別 併存疾患 既往症	診断  診断名 病理所見 診断法	検査データ  血液検査 画像検査	治療内容  治療法詳細 治療効果 有害事象	予後情報  フォローアップ イベントの有無 イベント発生日 再発形式 死因
全国がん登録	◎	◎	△	○	×	△ 初回治療	◎
NCD	◎	○ 手術例は全例	○	○	×	手術関連 のみ	×
肺癌登録	△	×	◎	◎	◎	◎	○

➤ 互いに補填し合うことで、より正確で詳細なDB作成が可能

# 理想とする登録事業の在り方

- 継続的・網羅的な事業展開
- 詳細な診療情報
- 正確な予後情報
- 迅速な情報解析
- 個人情報保護
- 効率的な集計作業
- DBの統合
- 継続的な国際貢献
- アカデミアによる利活用